

心臓移植の基準等に関する作業班(平成27年5月19日)

心臓作業班 参考資料1
27. 5. 19

本邦における小児移植患者の予後について (成人患者との比較検討)

日本循環器学会心臓移植委員会委員長(東京医科歯科大学 循環器内科)

磯部 光章

日本循環器学会心臓移植委員会心臓移植適応検討小委員会委員長

(東京女子医科大学 重症心不全制御学)

布田 伸一

対象と方法

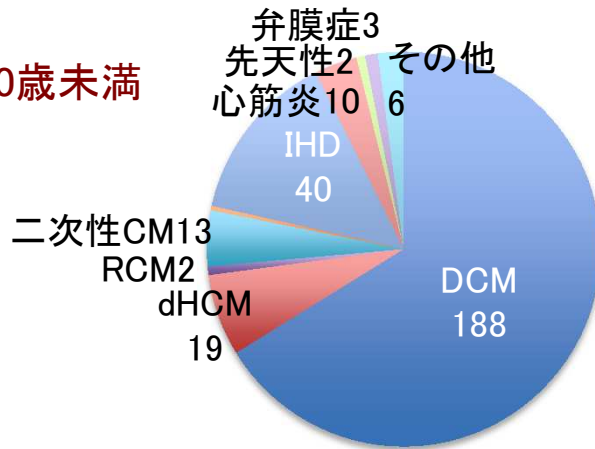
- 成人と小児における日本循環器学会心臓移植申請受付以降の予後について、改正臓器移植法以降の症例に限定し検討した。
- 改正臓器移植施行以降に、成人では65歳未満まで申請範囲が広げられたが、条件を一定にするため、成人は受付時60歳未満までとした。
- 死亡または移植をもってend-pointとし、以下の群においてカプランマイヤー曲線を作成し、 $p < 0.05$ で有意差ありと判定した。

各群の定義と内訳

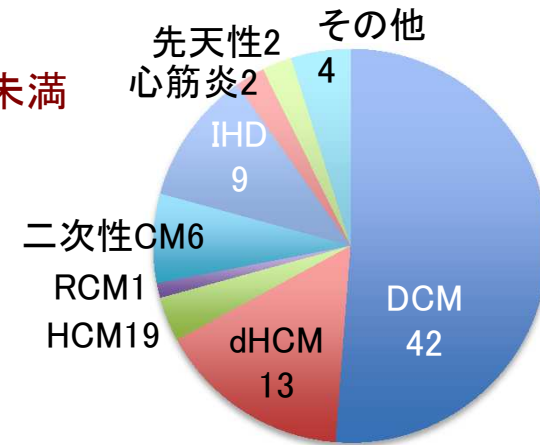
1 群: 18~60歳未満の受付時Status 1	284例(18~59、平均 40.5歳)
2 群: 18歳未満の受付時Status 1	48例(0~17、平均 9.1歳)
3 群: 18~60歳未満の受付時Status 2	82例(18~59、平均 43.3歳)
4 群: 18歳未満の受付時Status 2	20例(1~16、平均 5.8歳)

対象の原疾患内訳

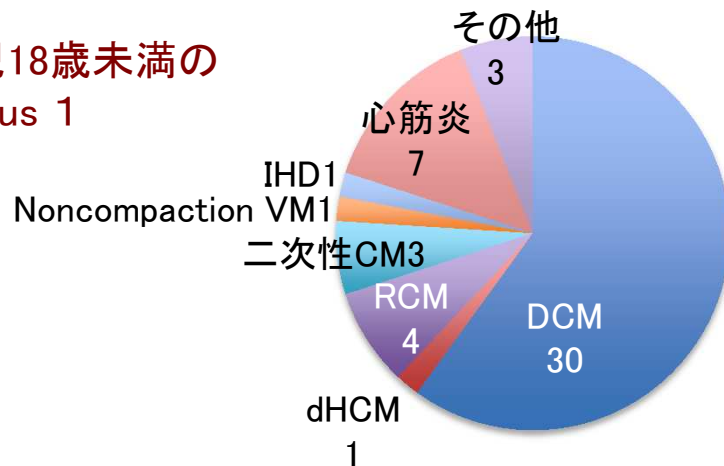
成人18～60歳未満
Status 1



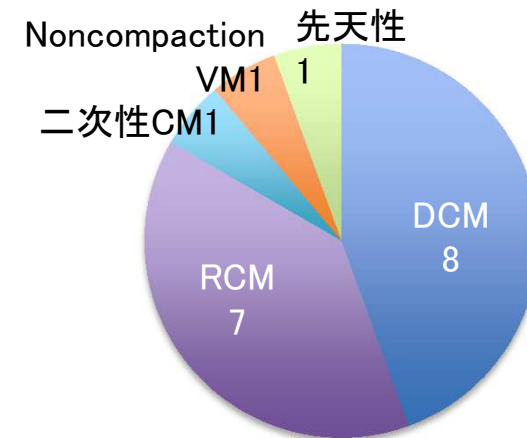
成人18～60歳未満
Status 2



小児18歳未満の
Status 1

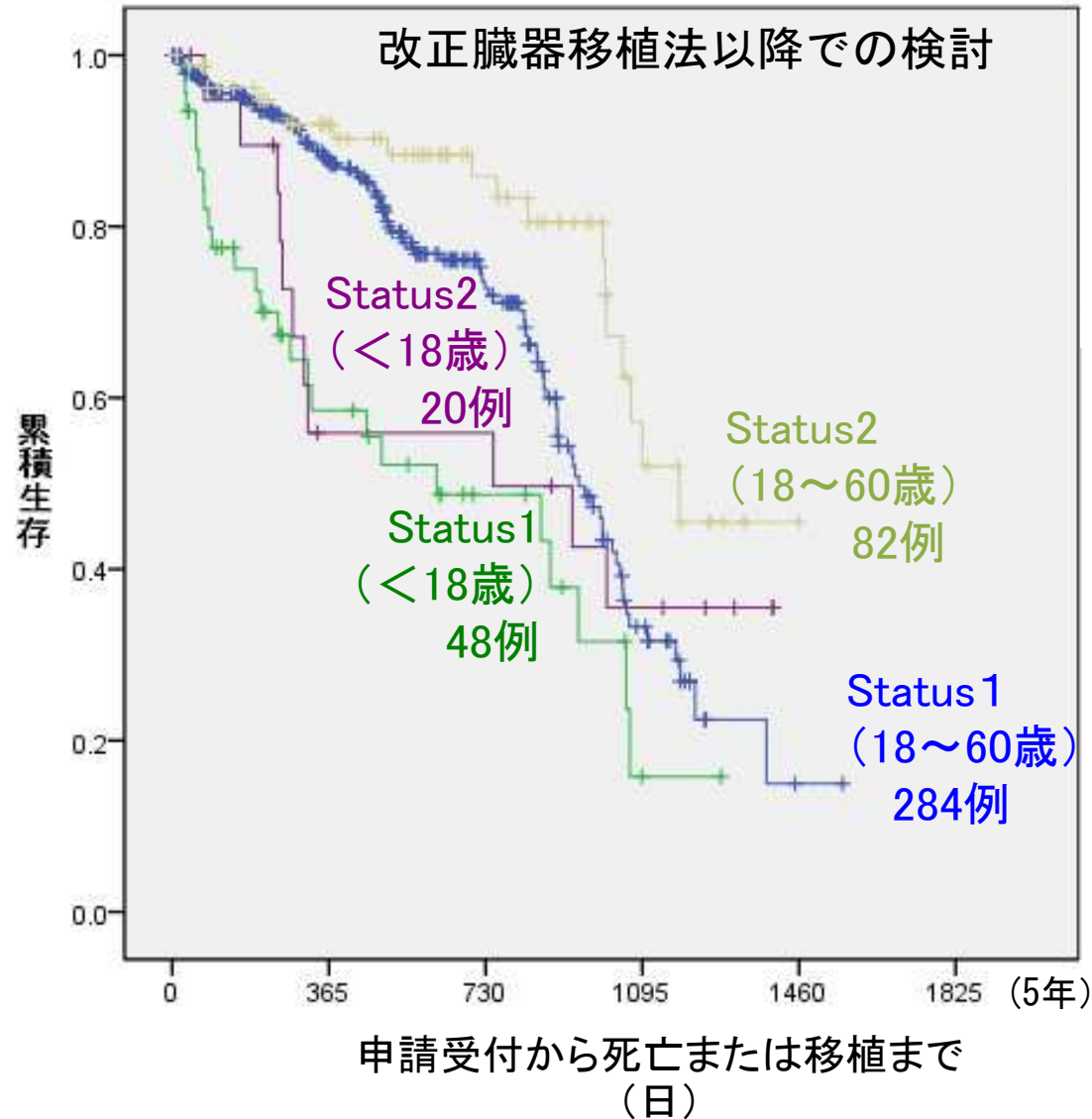


小児18歳未満の
Status 2



【略号】 DCM: 拡張型心筋症 HCM: 肥大型心筋症 dHCM: 拡張相の肥大型心筋症
RCM: 拘束型心筋症 二次性CM: 二次性心筋症 IHD: 虚血性心疾患
noncompaction of ventricular myocardium : 心筋緻密化障害

成人と小児における生存曲線



小児18歳未満では、
受付時Status 1とStatus 2に
おいて、予後に有意差は
認められない。

成人18~60歳未満では、
受付時Status 1がStatus 2に
比し、有意に予後は悪い。

受付時Status 1は小児18歳
未満が、成人18~60歳未
満より有意に予後は悪い。
Status 2においても小児18
歳未満が、成人18~60歳
未満より有意に予後は悪い。

総 括

- 成人と小児における日本循環器学会心臓移植申請受付以降の予後を検討するため、改正臓器移植法以降の症例に限定して検討した。
- 改正臓器移植施行以降に、成人では65歳未満まで申請範囲が広げられたが、条件を一定にするため、成人は受付時60歳未満までとした。
- 死亡または移植をend-pointとし、各群のカプランマイヤー曲線を作成し、 $p < 0.05$ で有意差ありと判定した。

結 果

- 小児18歳未満では、Status 1とStatus2において、予後に有意差を認めなかった。
- 成人18～60歳未満では、Status 1がStatus2に比し、有意に予後は不良であった。
- Status1は小児18歳未満が、成人18～60歳未満より有意に予後は悪く、Status2においても同様であった。